



ひとり
もう一人じゃないカエル

ウィル・フォークス

Will Fowlkes

Level 1.5

JAPN 1231 Tadoku Spring 2023

Vanderbilt University



わたし みどり い おとこ なつ
私は緑と言います。男のカエルです。ある夏の
ひ はは わたし たまご う
日、母のカエルが私の卵を産みました。
は あめ にしゅうかん あたた みず
晴れでも雨でも、二週間にずっと暖かい水にいまし
た。この間に全然動きませんでした。そして、すご
くあぶ さかな とり きょうだい たまご た
く危なかったです。魚や鳥が兄弟の卵をたくさん食
べました。とても悲しかったです。



卵たまごから出でる時ときがきました。でも、私わたしはカエルじゃな
かったです。尻尾しっぽがあつて、足あしがありませんでし
た。そして、肺はいがないので、水みずから出でられませんで
した。お玉杓子たまじゃくしでしたから。水みずの外そとはどうですかと
おもいました。私わたしが知しりたかったです。



たまじゃくしたまじゃくしの時とき、兄弟きょうだいと遊あそびました。百匹ひゃくひきぐらいがい
ました。みんなの名前なまえはよく分わかりませんでした。

じゅうしゅうじゅうしゅうぐらい兄弟きょうだいと遊あそびました。その間あいだに半分はんぶんぐらい
食たべられました。とても悲かなしかったです。



ある^{なつ}夏^ひの日、尻尾^{しっぽ}がなくなって、足^{あし}が生え^はました。
足^{あし}は小^{ちい}さいので、水^{みず}から出^でませんでした。また水^{みず}の
外^{そと}はどうですかと思^{おも}いました。明^{あか}るくて、大^{おお}きくて
茶^{ちゃいろ}色^{いろ}のものがあ^{あか}って、赤^{あか}い葉^はや茶^{ちゃいろ}色^{いろ}い葉^はがありまし
た。

image source: Lionheart, Bill and Sam, CC BY-SA 4.0 <

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Common_frog.jpg> via Wikimedia Commons



わたし おな とき きょうだい で そと せ かい
私と同じ時に、十匹の兄弟が出ました。外の世界は
とてもあぶ 危なかつたです。とり いぬ きょうだい た わたし
は一人になりました。そして、ひと という どうぶつ
がいました。



ふゆ 冬になって、その間あいだずっと寝ねました。起きた時とき、春はるになりました。ある春はるの日ひ、かわいい女おんなのカエルと会あえて、結けっこん婚こんしました。寂さびしくなくて、幸しあわせな生せい活かつになりました。



わたし は いけ かえ つま たまご いっせん
私たち一緒に生まれた池に帰って、妻は卵を一千ぐ
らい生みました。ほんとに嬉しかった。その子たち
は私の子なので、きっと生きます。いいカエルにな
ります。

Source for title picture: LiquidGhoul, Public domain, via Wikimedia Commons